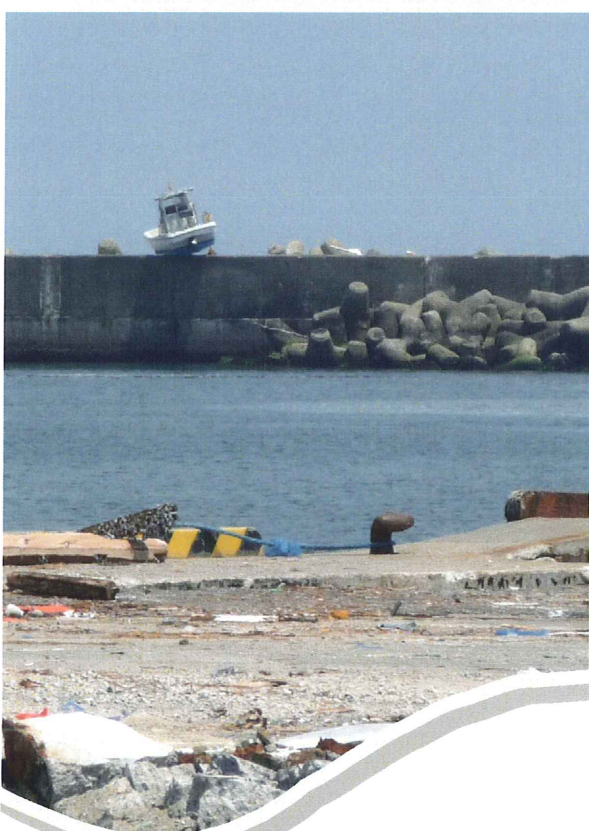
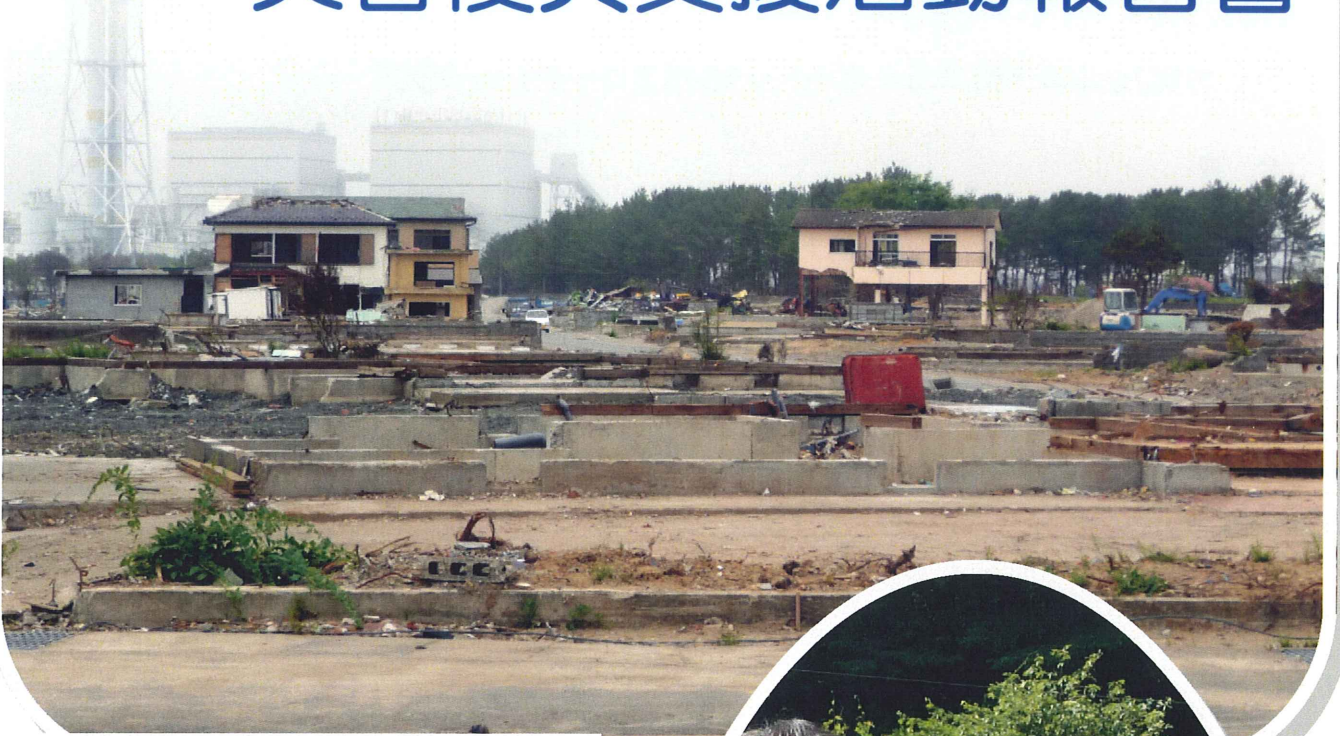


福島中央ロータリー・クラブ 災害復興支援活動報告書



元オーストリア連邦日本大使館
特命全權大使
ユック・シュテファン バストル閣下
霊山町にて放射線量測定

国際ロータリー第2530地区
福島中央ロータリー・クラブ

<ご協力をいただいた皆様方>

アメリカ合衆国

- ・ カリフォルニア州 ニューポート・バルボアロータリー・クラブ

台 湾

- ・ 台北東南ロータリー・クラブ
- ・ 台北市中興ロータリー・クラブ
- ・ 台北グランドパークロータリー・クラブ

フィリピン

- ・ フィリピン・サンペドロロータリー・クラブ

国 内

- ・ 新大阪ロータリー・クラブ
- ・ 鹿児島東南ロータリー・クラブ
- ・ 岡山後楽園ロータリー・クラブ
- ・ 大宮南西ロータリー・クラブ
- ・ 和歌山東南ロータリー・クラブ
- ・ 和歌山中ロータリー・クラブ
- ・ 広島中央ロータリー・クラブ

個 人

- ・ 沈世雄様

翻訳協力

国際ロータリー2530地区 2012-2014年度 米山奨学生

福島大学在学中 (世話クラブ：本宮RC)

日本名：ン レイ ション

国 籍：マレーシア



3月9日（水）正午前、私は例会に出席するため福島駅近くの交差点で信号待ちをしていた時のことです。停車していた私の車は、周りの樹木や路面さらには建物や電線と一緒に激しく揺れ始め、平衡感覚を失うほどのその揺れは暫く続きましたが、それが大震災の予兆だということは知る由もありませんでした。翌々日の3月11日（金）東日本大震災（本震）が発生、続いて東京電力福島原子力発電所の事故の報道に対して真っ先に家族の安否やライフライン（水、電気、食料）の確保のこと、次に仕事上の連絡や緊急配送車両のガソリンや高速道路通行のための緊急車両指定の手配のこと、そして、見えない放射線の恐怖（原子炉の爆発）に対するテレビやラジオからの情報収集に追われた10日間のことは今でも鮮明に思い出すことが出来ます。

震災直後は、電話等の通信手段も限られていましたので、ロータリーの例会や理事会も当分開催できないと考えておりましたが、震災から3～4日後にはメールを通じてロータリアン同士の安否の確認や様々な情報の提供が誰からともなく始まり、震災から約1ヶ月後には例会開催にこぎつけると同時に、復興支援活動もスタートいたしました。

2010-2011年度・紺野信会長年度は、4月12日避難している子供達への通学用自転車の寄贈を皮切りに、避難所での炊き出し支援、シェルターボックスの設置等、年度も終わりに近づいた僅か3ヶ月の間に5つの復興支援事業に取り組みました。震災発生直後は活動を自粛せざるを得ない状況でありましたが、その中にもあっても会員相互が力を結集し、様々な復興支援活動を計画・実行することができたのではないかと思います。

2011-2012年度・佐藤和子会長年度では、正式に復興支援プロジェクトという委員会組織を立ち上げ、福島市へ避難している中学生への国語辞典と英和辞典の寄贈や福島市や飯舘村への放射線測定のための車両を寄贈する等、6つの事業に取り組むことが出来ました。正に復興元年と位置づけられた年度でしたが、国内外のロータリアンの協力を得て数多くのマッチング・グラントを有効に活用する等、各市町村に貢献する活動が本格化しました。

今年度は、二本松市に避難している浪江町に対して多目的に利用できる軽車両の贈呈、今年度から授業に加えられたにもかかわらず不足していたソフトボール用具一式を飯舘中学校への寄贈、そして夏休み期間には広島中央ロータリー・クラブの支援により福島、郡山の小中学生を対象に山口県周防大島に招き夏休み子供プロジェクトを行なうことができました。今後はこれからの福島に相応しい心の支援を模索していきたいと考えております。

これらの事業を実行するに当たって復興補助金やマッチング・グラントの制度を活用させていただきましたが、国内は基より台湾や米国のロータリー・クラブからも多くのご支援を頂戴いたしました。東日本大震災から早2年が経過するに当たり、これまで福島中央ロータリー・クラブが取り組んできた復興支援活動を小冊子にまとめ、物心両面から支えて下さった各ロータリー・クラブの皆様方に対し報告と御礼を差し上げたいと思います。

皆様方の温かいご支援に対し会員一同心より感謝申し上げます。





2011年3月12日は郡山にて President Elect Training Seminar (PETS) が開催される予定でした。揺れが続く中、明日のPETSは開催されるのだろうか、道路や新幹線は大丈夫だろうかと悩んでいたら、事務局員が私の事務所に現れ、明日のPETSは延期と伝えていただき、初めて地震の大きさに足がすくんだことを思い出します。

もうすぐ震災と原発事故から2年を迎えようとしております。震災1年目の22代目会長として無我夢中で復興支援と例会運営を行ってきました。地区のロータリー行事のスケジュールも異例なことばかりでした。

会員の方には、社屋や自宅が半壊している方、原発事故の避難区域に指定された方等々、なんらかの被災を受けている中で会員が一丸となって復興支援を行ってきました。

そして国際ロータリーの偉大さを感じる事が出来ました。世界のそして日本の各地区のクラブから支援の手を差し伸べていただき、本当にありがとうございました。

福島震災復興及び原発事故と風評被害からの復興はまだまだ時間がかかり、未永い支援をしていかなければと考えております。

とりあえずこれまでに取り組んできた復興支援を取りまとめました。これからも私たちができる支援を続けていきたいと思っております。今後とも福島の復興に向け、皆様方の支援を宜しく申し上げます。そして、これまでの多大なるご支援に対し感謝申し上げます。





2011年3月11日は、生涯忘れ得ない日となりました。

我がクラブは、創立21年目にあたり小生が、第21代目の会長を仰せつかりそのミッションのゴールがかすかに見えてきた初春の頃でした。当初マスコミは、東北関東大震災と銘打ちましたが、その後「東日本大震災」と変えました。

私自身過去最大の大規模な地震との遭遇と太平洋側での大津波と火災の発生により多くの犠牲者を出し、そして原発事故と続きライフラインの寸断により我が家族とも福島には戻れないのか？覚悟をきめ山形県に避難という決断をしました。一番の気掛かりは、会員の安否でした。最初は、会員の安否確認と会員自宅や事業所の被害状況の確認でした。事務局とパソコンメールでのやり取りで、ほぼ全員の方と電話やメールで、無事の確認が出来た時は、胸をなでおろしました。例会場は、被災により開会出来ないため各会員事業所での例会となりました。

いち早く海外からのロータリアンと各クラブよりメールでの励まし見舞・支援を頂きその年度での5つの復興支援活動に奔走しました。今後も、健康不安の解消と安心・安全で美しい福島を取り戻す為に微力ですが、貢献して参る事をお誓い申しあげまして、初代復興支援PJの委員長のご挨拶とします。

最後に物心ともにご支援を頂きました皆様に敬意と感謝を申し上げ末長いご親交を切にお願いいたしまして、御礼と致します。



福島中央ロータリー・クラブ 復興支援プロジェクト一覧

実施日	復興支援名	参加・協力RC・協力者	支援金 (円)	総額 (円)
2011年 4月12日	福島市に避難している生徒への自転車の寄贈	台北東南RC 福島中央RC	646,000 456,500	1,102,500
2011年 4月14日	あづま運動公園でのマグロのづけ丼の炊き出し	アントニオ古賀氏 安倍里律子氏 (株)ハートライン すしざんまい		
2011年 4月16日	田村市の小学校と石川町の体育館へシェルターの設置	福島中央RC		
2011年 4月17日	あづま運動公園へのシェルターBOXの寄贈	福島中央RC		
2011年 4月24日	「がんばろう福島交流実行委員会」主催の「なんでも相談会」への参加	福島中央RC		
2011年 7月20日	福島市へ避難している中学生への辞典の寄贈	新大阪RC・台北市中興RC 福島中央RC	1,240,000 100,000	1,340,000
2011年 9月16日	日本ボーイスカウト福島連盟へのシェルターBOXの寄贈	福島中央RC		
2011年 10月1・2日	少年サッカー大会の猪苗代開催	福島中央RC		
2011年 10月26日	飯舘村への線量車寄贈の協賛	鹿児島東南RC・台北グランドパークRC 福島中央RC (パートナー)	1,300,000	1,300,000
2011年 11月18日	福島市へ放射線測定のための車両の寄贈	東日本復興支援基金	3,549,000	3,549,000
2011年 12月22日	福島市へ避難している小学生への辞書の寄贈	新大阪RC・台北市中興RC 東日本復興基金 第2530地区補助金 福島中央RC	200,000 988,000 688,000 100,000	1,976,000
2012年 7月24日	浪江町役場への車両の寄贈	ニューポートバルボアRC 第5320地区DDF 第2530地区DDF 二本松RC 福島中央RC	422,100 252,000 496,176 28,700 32,800	1,231,776
2012年 7月25日～ 8月3日	「広島・山口げんきっ子クラブ」夏休みを利用したホームステイ事業	広島中央RC 福島中央RC		
2012年 11月20日	飯舘村中学校へのソフトボールセットの寄贈	第2530地区復興補助金 福島中央RC	280,000 120,000	400,000

2011年4月12日 市内の中学校に通う避難生徒に自転車70台を寄贈

震災直後、友好クラブであります台北東南RCより何かの役にたてばと義援金として、60万円を支援して頂きました。そこで、当時、震災後被災地から避難して福島に学校に通う子供達にほしい物はないかと教育委員会に尋ねたところ、「避難場所から学校が遠いので通学用自転車ほしい」とのことでした。台数をなるべく多くしたいとの考えから、我がクラブからも60万円を準備、合計120万円で自転車70台を購入し市内の中学校に通う避難生徒に配車することが出来ました。一日も早く子供達が、元の学校へ戻れるように祈るばかりであります。



2011年4月14日 アントニオ古賀氏、安倍里律子氏の歌、「すしざんまい」さん、2つの避難所で、約1,000食分のマグロのづけ丼の炊き出し

震災から1ヶ月が経った4月14日、福島中央ロータリー・クラブは、被災者の避難所となっている自治研修センターとあづま運動公園の2カ所を訪ね、アントニオ・古賀さんと安倍里律子さんの歌、そして、築地で評判の「喜代村・すしざんまい」のづけ丼をお届けしました。

「すしざんまい」の木村社長は、この日のためにマグロ5本をおしみなく使ったづけ丼を1,000食準備。引き連れてきた寿司職人さんたちと共に、威勢のいい声を張り上げながら、次々とづけ丼を振る舞いました。

浜通りから避難してこられた方は「1ヶ月以上ぶりの刺身で感激!」「とっても美味しいー」と大喜び。アントニオ古賀さんと安倍里律子さんは、音楽のプレゼントで避難所の皆様にエールを贈りました。心にしみるギター演奏、全員での古賀メロディーの合唱、安倍里律子さんとのデュエットなど、心ふれあう時間となりました。

ステージの最後に、「皆さんの心とお腹に栄養を届けたい…という思いで駆けつけて参りました。どうか困難に負けずに、頑張ってくださいー」とアントニオ古賀さんが締めくくると、会場からは感謝の拍手が沸き起こりました。



2011年4月16日 田村市立春山小学校と石川町立石川総合体育館に各3基のシェルターBOXを設置

大震災と原発事故からほぼ一カ月過ぎの4月16日、紺野会長、高橋幹事など9名の精鋭部隊はトラックに6基のシェルターを積み、地震で波打つ常磐道を疾走して目的地に到着してすぐに上記2か所にそれぞれ3基ずつシェルターを設置しました。当時は放射能の怖さは知ってか知らずか使命感の方が強かったと思います。避難者には大変喜んで頂きました。



2011年4月17日 あづま運動公園避難所へ シェルターBOX24基寄贈

東日本大震災後 当クラブは、2回の例会が、開会できない状況でした。ようやく4月に入り各会員の事業所の協力により開会することになり久々に元気な会員に会えて感激した事を覚えています。丁度その頃地区よりシェルターBOXの希望を募られ当クラブは、会員の紹介もあり市内のあづま運動公園内の体育館に寄贈することになりました。4月17日の例会後出席会員のほとんどが、テントの設置に協力し奉仕の良い汗をかきました。浪江方面からの被災者の皆さんに、シェルターBOXの提供は歓迎され特に女性のプライベート面で、大変感謝されました。その後慰問のために会場を来訪されました天皇・皇后両陛下と共に我々の設置したシェルターBOXが一瞬でしたがテレビ放映され大変感激しました。



2012年4月24日 「I love ふくしま元気イベントのなんでも相談会」に共催参加

平成23年4月24日、福島市のまちなか広場等で「がんばろう福島交流実行委員会」主催（当クラブも共催）の「I love ふくしま元気イベント」が開催されました。イベントの企画の1つ「なんでも相談会」に、復興支援プロジェクトの紺野信会員、穴戸宏行幹事、芳賀裕会員、高橋正見会員、そして私の5名で参加しました。

相談者数は多くありませんでしたが、正に職業奉仕による復興支援活動に携わることができ、有意義な1日となりました。



2011年7月20日 福島市に避難している児童に国語辞典と英和辞典を354冊贈呈

市内の小中学校へ通う避難児童生徒のために、できるだけ市内の小中学生と同様の教育環境を整えたいと悩んでいました。そこへ、新大阪RCの中川建司会長エレクト（司法書士）の協力申出があり、併せて4月に避難所から学校へ通う生徒へ自転車70台を寄贈した台北市中興RCの再度の協力もあり、避難中学生354名に国語辞典と英和辞典を贈呈できました。

両RCは、12月に避難小学生520名への国語辞典と漢字辞典贈呈にもご協力いただき感謝に堪えません。



2011年9月16日 日本ボーイスカウト福島連盟にシェルターBOXを6基寄贈

当時、第一避難所であった「あづま運動体育館」に贈呈したシェルターBOXのうち、その役割を終えたということで、2基をそのままあづま体育館に残し、残りの6基を2011年9月16日に日本ボーイスカウト福島連盟に寄贈しました。これは、桐原会員が昔、日本ボーイスカウト福島連盟に所属しており、その関係で話がまとまったものです。当日は、佐藤会長と鈴木社会奉仕委員長、桐原ノミニーの4名で、あづま体育館より鈴木会員の会社のトラックをお借りし、日本ボーイスカウト福島連盟がある福島市黒岩の青少年会館まで、運び入れました。シェルターBOX1基の重さは数十キロで二人がかりでの作業となり、とてもいい汗をかきました。



2011年10月1日、2日 福島中央ロータリー・クラブ杯少年サッカー大会を猪苗代で開催

例年福島市内で開催している少年サッカー大会は放射能の影響を少なくするため、猪苗代町運動公園で2011年10月1日、2日に8チームの参加で開催されました。大会期間を縮小しての2日間だけの開催となりましたが、父兄をはじめ関係者からは大変喜ばれました。子供たちは、これまで体育館で練習をしてきており、震災以来初めての外での試合ということで、感謝の手紙もいただきました。



2011年10月26日 飯舘村へ線量測定車を寄贈

2011年10月に第2730地区の鹿児島東南RCから当地区に支援申し出がありました。地区内から2クラブが名乗りを挙げましたがご縁があり光栄にも当クラブ福島中央RCがパートナークラブとなり甚大な被害を受けた飯舘村へ線量車両の寄贈を実施することになりました。鹿児島東南RCの友好クラブであります台湾の台北グランドパークRCの2クラブの義援金によるものでした。

台北から李会長他3名さらに鹿児島から長峯ガバナー、上園会長他5名のロータリアンが現地から車両を搬送しての寄贈でした。

地区の震災復興支援事業として地区からも根本ガバナー始め当中央の会員で盛大にお迎え致しました。

記憶に残りますのは、軽車両には沢山の生活用品や地元鹿児島の名産サツマイモを満載しての福島入りでした。お手伝いした者として心より2クラブに感謝と敬意を表します。寄贈車両につきましては飯舘村からも有効活用されていますとの事を報告受けております。



2011年11月18日 福島市へ放射線測定のための車両2台寄贈

平成23年7月、福島市政策推進部と原発災害の現状と取り組みについてクラブ委員8名で話をしました。福島市内全域において、行政（福島市）が、主体となり、延べ1,000カ所の地点を線量計にて測定するにあたり、その業務に支障が生じない様に測定の為に是非車両をお願いしたいとの要請を受けました。

福島中央ロータリー・クラブの復興支援プロジェクト内で対応のための会議を開きました。その結果、放射線から市民や子供を守ると言う事が緊急性を要することから、8月5日付でロータリー東日本震災復興基金に対し補助金申請を致しました。

9月24日、審査の結果承認されたとの連絡がありました。それを受けトヨタ・ダイハツの両ディーラーと車体のデザインの打ち合わせを行い発注しました。納車まで約50日ほど要するとの事でしたが特別の計らいにより11月初旬に入荷、福島市へ11月18日に寄贈する事となりました。

寄贈式には、地区ガバナー補佐の渡辺健寿氏・地区財団委員長平井義郎氏を始め、当クラブからは佐藤和子会長以下10名の会員と関係者が出席しました。

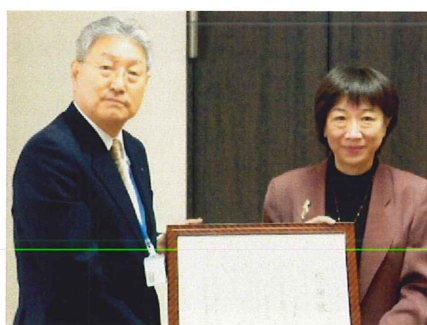
12月7日の例会にて、市の政策推進部危機管理室の防災担当草野利昭氏の放射線除染の経緯などについてのスピーチを頂き、例会後寄贈した線量測定用車両により会員6名が市内三河台小学校の校庭などの放射線測定活動を実施致しました。

福島市の担当者によると1日市内約10カ所の学校・公園等の継続測定を実施している。また市民からの測定要請も大変多く数週間待ちの状況にあるとの事でした。



2011年12月22日 福島市教育委員会へ国語辞典と漢字辞典520冊を贈呈

2011年12月22日福島市教育委員会へ福島市に避難している小学生のため国語辞典と漢字辞典520冊を贈呈しました。これは、避難している子供たちが、学校指定の辞書や辞典をなくしているということで、新大阪RC、台北市中興RCの協力支援のもと併せて東日本復興支援基金の助成と第2530地区義援金の補助を受けて贈呈しました。辞典は各小学校に配送しましたが、2学期の終了間際ということで、年内に子供たちの手に渡るかどうか心配しましたが、無事完了しました。



2012年7月24日 浪江町役場へ車両寄贈

2012年2月に、カリフォルニア州オレンジ郡のNewport バルボアロータリー・クラブからMG(マッチンググラント)の温かい支援依頼がありました。

3月に入り理事会や復興支援会議で、審議を重ね二本松RCの協力を得まして3月末にRI(国際ロータリー)に申請いたしまして、(めでたく)MG No. 7740 として受理されました。その間 初のMGでもありバルボアRCの国際奉仕のロバート氏ニックネームBobさんと数多くのやり取りがあり大変良い経験をさせて頂きました。



2012年11月20日 飯舘村にソフトボールセット寄贈

当クラブの会員には、飯舘村出身者がおりまして、何かと飯舘村とは、ご縁のある自治体であります。2011年10月には、鹿児島県の同志からの車両の寄贈にもパートナークラブになる機会もありました。

更に村教育委員会の横山氏から飯野町に避難されている飯舘中学仮設校舎にソフトボール用品1式の希望があることを伝えられました。その後当クラブの理事会・復興支援PJでの協議の結果、地区からの支援を頂く事になり、めでたく承認されまして、2012年11月20日に現地で寄贈式を挙行了しました。将来を担う青少年の育成に大いに発揮され活用されることを願うばかりです。





災害復興支援報告書

2013年3月1日発行



発行者 福島中央ロータリー・クラブ
960-8051 福島市曾根田町4-22
TEL : 024-526-7211
FAX : 024-526-7212

編集 復興支援プロジェクトチーム
企画 復興支援プロジェクトチーム
制作 株式会社システム・コア

復興支援プロジェクトチーム委員長 佐藤 和子
副委員長 穴戸 宏行
安藤 正道
菅野 建二
紺野 信
高橋 正見
地区財団委員長 平井 義郎